

マイの

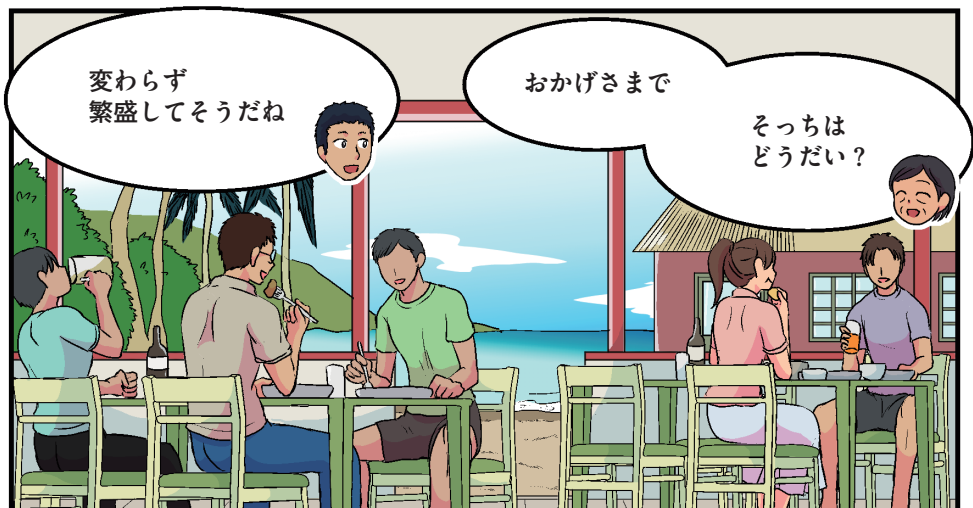
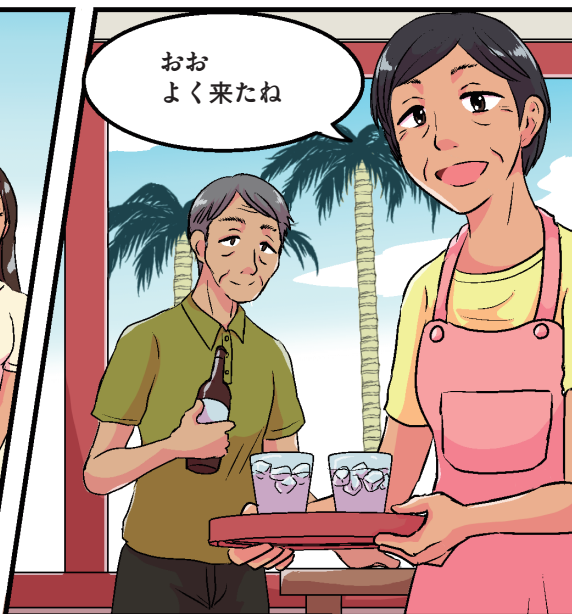
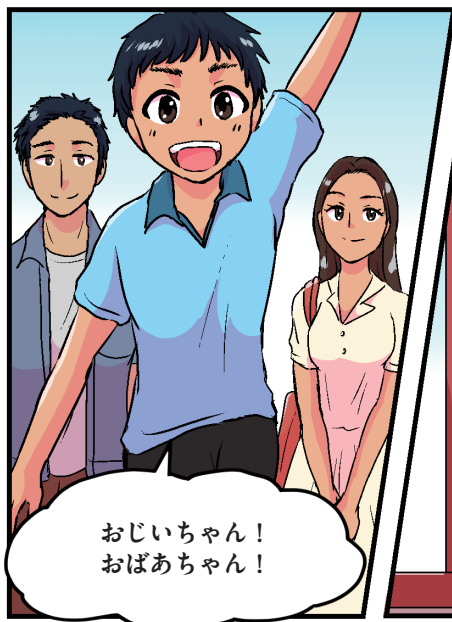
プロジェクトヒストリー「漫画版」

新しい地平を 拓いた挑戦

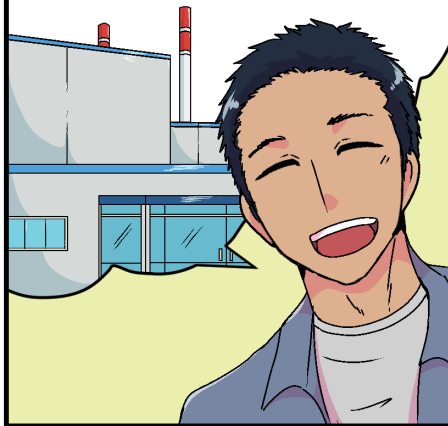
東部臨海開発計画とテクノクラート群像



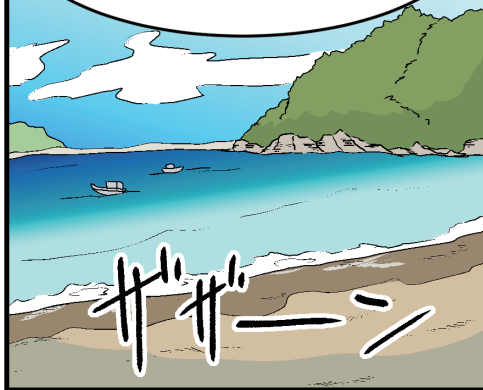
原作・監修：下村恭民
漫画：宮嶋緑子



オレも工場でバリバリ
働かせてもらってるよ！

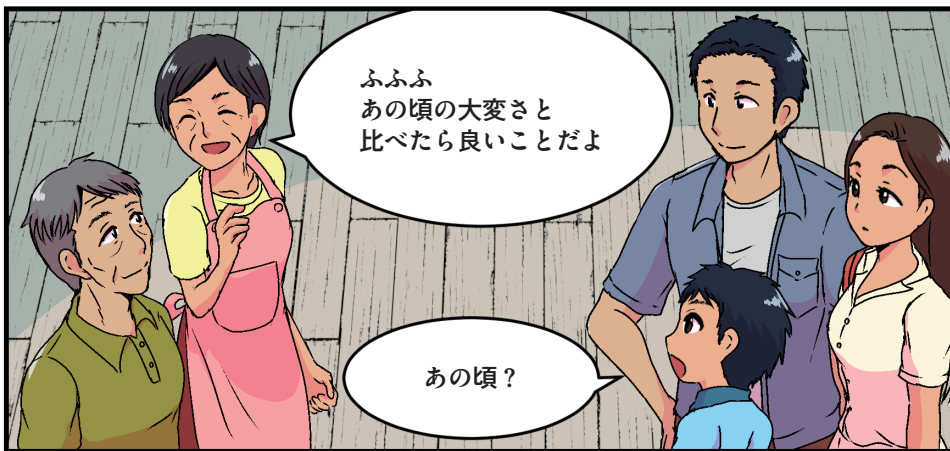


おかげで帰省するのも
久しぶりに
なっちゃったけど…

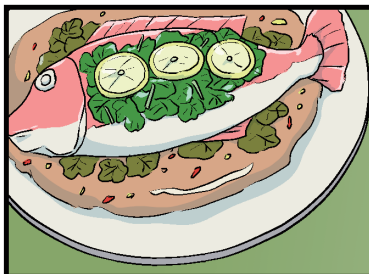


ふふふ
あの頃の大変さと
比べたら良いことだよ

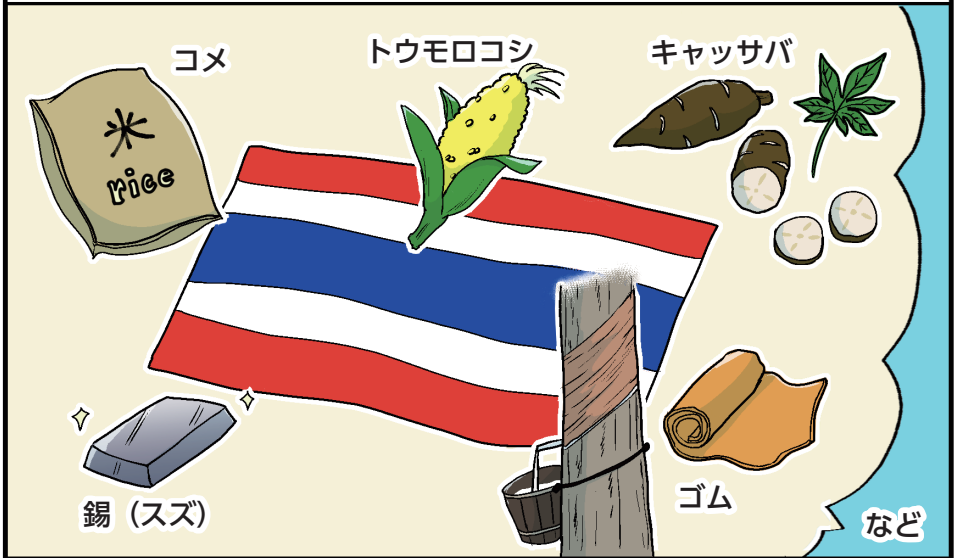
あの頃？



あの頃の大変さ
覚えている人はどれくらい
おるのかねえ…



長年タイ経済を支えていたのは加工されていない
農産物や鉱産物などの一次産品の輸出だった

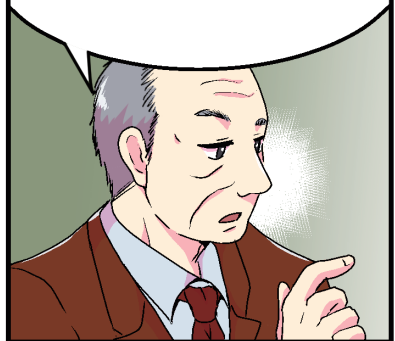


しかし1970年代後半に
第二次石油ショック*が起こり



一次産品の国際市場価格低迷は
一時的とならず長期化した

一次産品の輸出国は
工業製品の輸出国に比べ
長期的に不利になるだろう



という経済学者の
主張に——

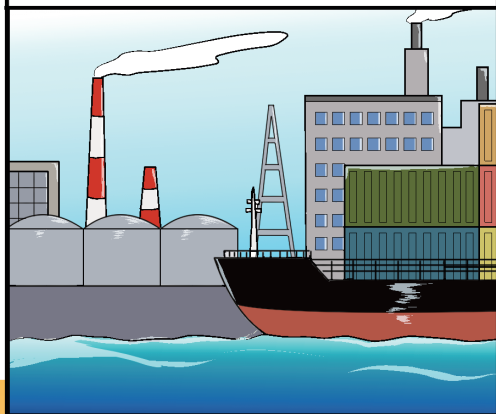
※石油ショック：石油を産出する国が原油価格を大幅に引き上げたり、
石油の生産を削減したりすることで世界経済に深刻な影響を与える現象

タイの人々は
危機感を持つ

工業製品を輸出する国に
ならなければ国が
衰退してしまう…



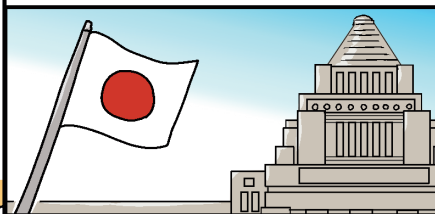
そこで1980年
タイ政府は首都バンコクの東南に
近代的な臨海工業地帯を建設する
「東部臨海開発計画」を決断した



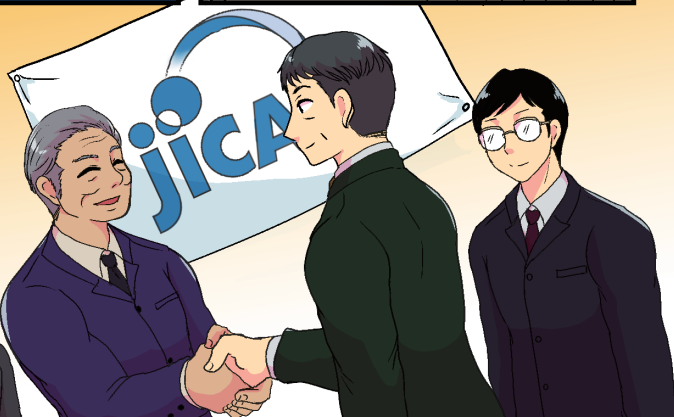
当時のタイの経済力からすると
分不相応な大型事業であったが

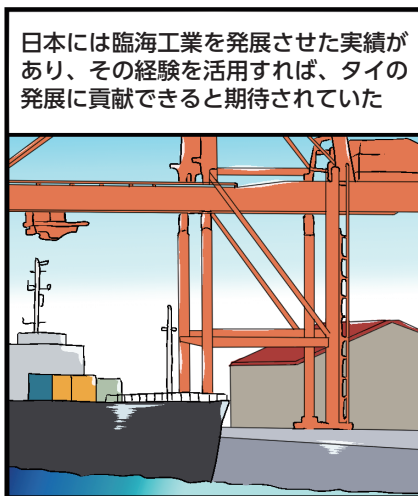


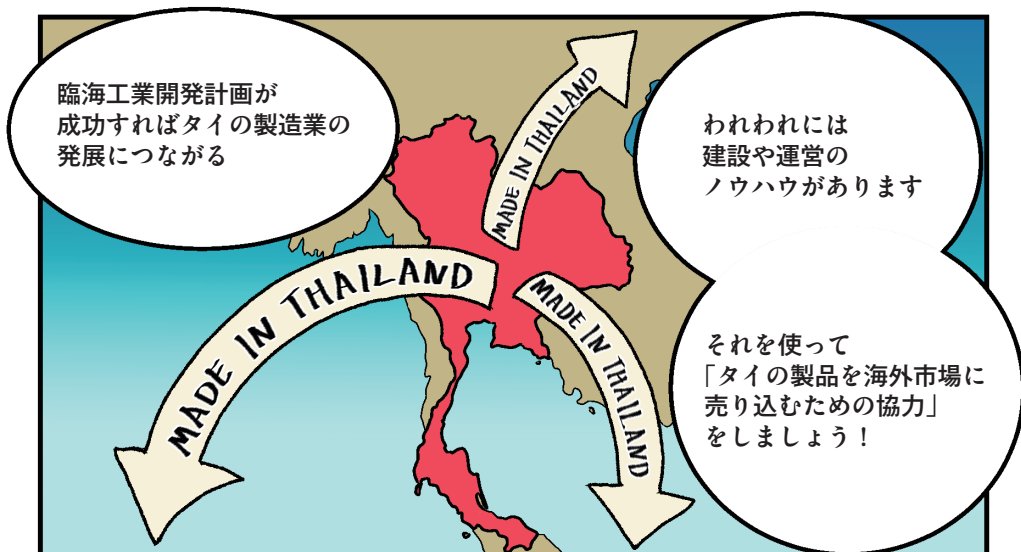
それに対し
日本政府は全面協力を表明



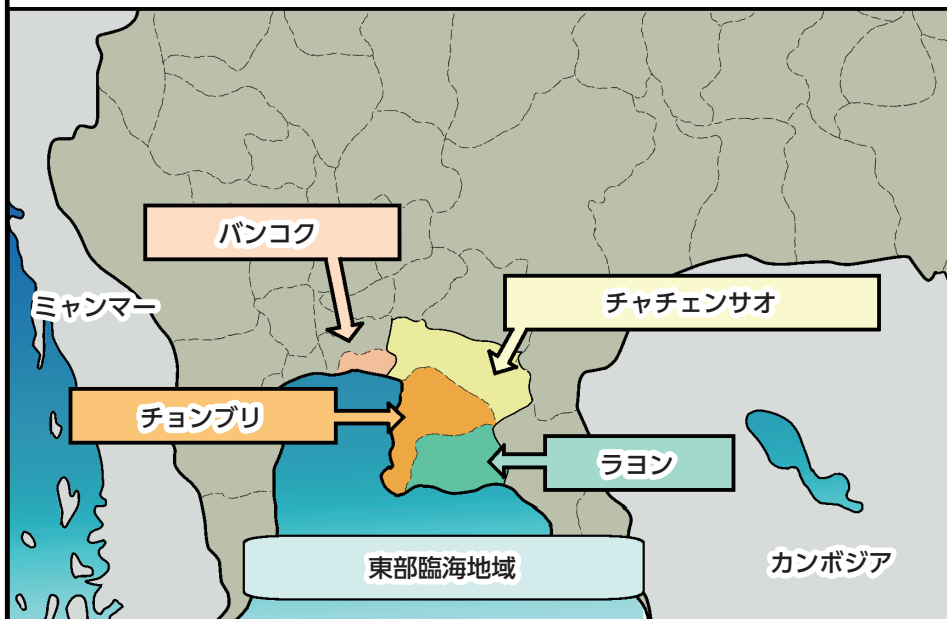
翌年にはJICAの
技術協力が
開始されることに







このプロジェクトの場所には
首都バンコクから近い東部臨海地域が選ばれた

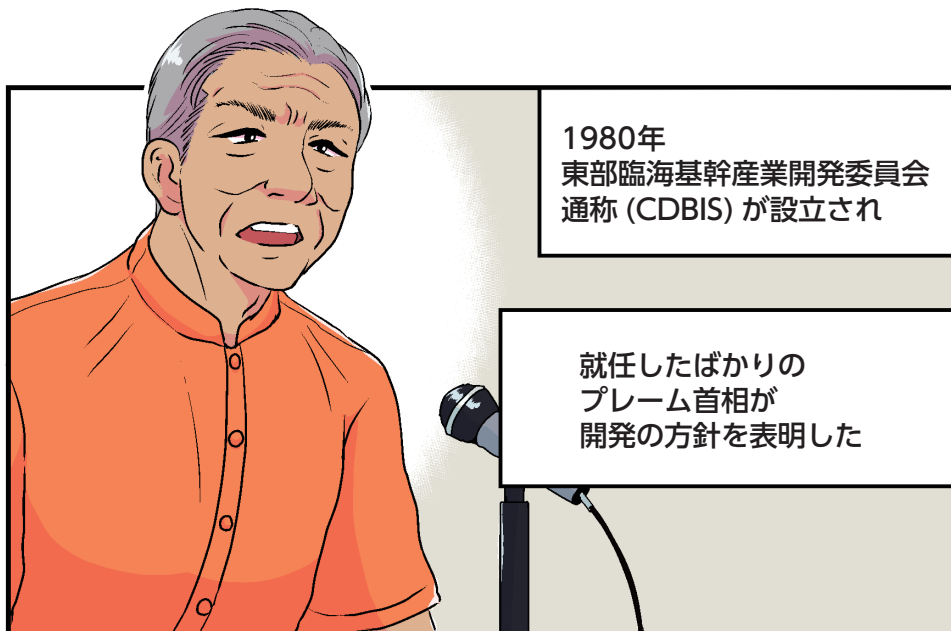


東部臨海地域はバンコク東南の沿海部の3県
チャチェンサオ、チョンブリ、ラヨンを指す

この地域は頼れる水源もなく
農業生産に適していない土地であったため



首都圏から100km程度という近い位置にあったが
人口密度が低く広大な過疎地帯だった



- ①近代的な輸出工業の育成
- ②天然ガス田の活用
- ③バンコク首都圏への一極集中の緩和、地域格差の是正

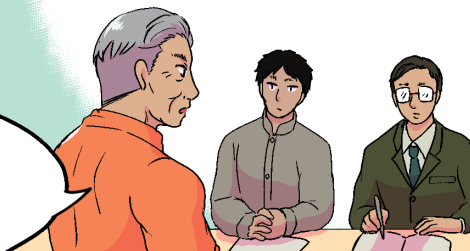
東部臨海開発構想は当時のタイが直面していた
三つの重要な課題に対応するものだった

①近代的な輸出工業の育成

十分な国際競争力を持つ
輸出志向型工業を
育成するためには

海外からの直接投資※を誘致し
高度な技術提携を
得ることが不可欠だ

※海外直接投資：企業が国外で事業を
行うための投資
経営に参加し技術提携や資産運用を行う



そのためには海外の投資家にとっても
魅力的な立地条件である
臨海工業団地の建設が急務だった



臨海工業団地のカギは
水深の深い近代的な港湾だ

バンコク港

現在の主力港はバンコク港だが
水深が浅く、水路が曲がりくねっている影響で
大型コンテナ船が停泊できない

次世代の主力港湾を
東部臨海地域に建設するんだ

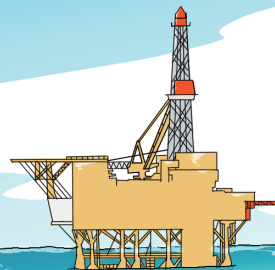
チャオプラヤ川

②天然ガス田の活用

1973年にタイランド湾で
発見された天然ガス田

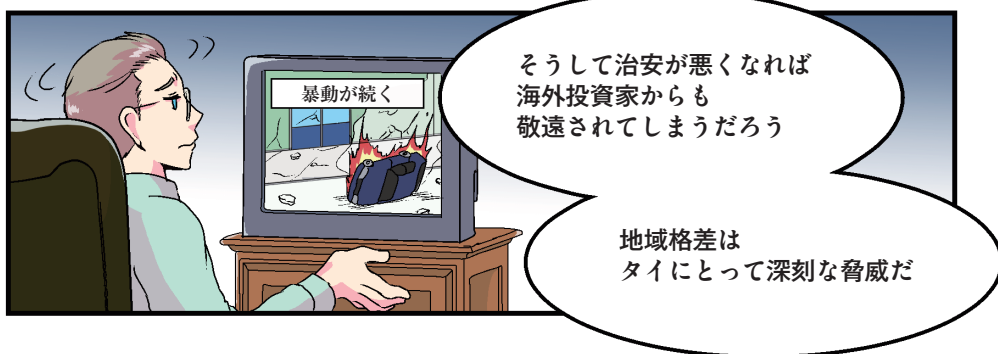
この新たに発見された
有力な国産エネルギーは

タイ経済の近代化を進める上で
重要な足掛かりになる



天然ガスを利用した重化学工業団地建設を立案

③ バンコク首都圏への一極集中の緩和、地域格差の是正



経済発展のエンジンである
海外からの直接投資を誘致するためには
治安の安定や都市部での犯罪率の低さなどが決め手の一つであり
そのためのカギが農村の生活の安定にあった

日本に
協力を仰ごう

OECF(海外経済協力基金)※は
円借款を実施

農村部の生活水準を引き上げるために
農村開発プログラムを精力的に推進し
地方、農村向けのインフラを整えた

電力、道路の整備

かんがい
小規模灌漑設備の建設
(生活用水や農業用水のための水路)

小学校の建設

農業協同組合銀行
(BAAC) による農村金融

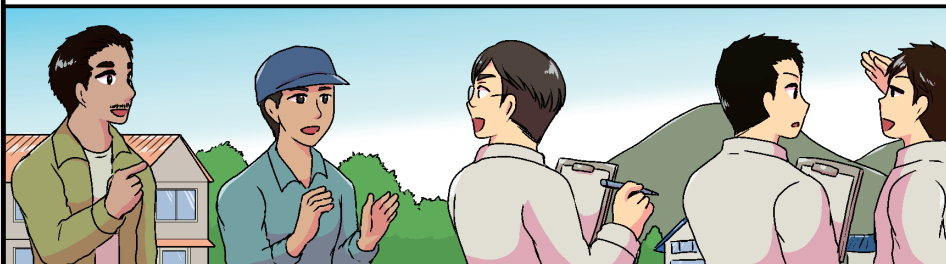
融資

※1980年代の日本のODAは、技術協力担当のJICA(国際協力事業団)と
資金協力担当のOECF(海外経済協力基金)の二本柱によって実施されていた
東部臨海開発の事業のほとんどは、OECFが実施した

農村開発プログラムに加えて
地方への工業誘致が進めば
地域格差の拡大を
食い止めることが
できるのではないか

生産拠点を
バンコク首都圏から
分散させる
「東部臨海開発計画」
にはこの点で
大きな効果が
期待できる

臨海工業地帯計画は日本の成功例をもとにしたもので



日本は大型工業団地の建設や運営に対するノウハウもあったため
タイへの全面的支援を約束した

東部臨海開発計画の核心は近代的港湾に隣接した
大型工業団地をレムチャバンと
マプタプットの2カ所に建設することであった

バンコク湾内部にある
レムチャバン港と異なり



タイ

バンコク

チャチェンサオ県

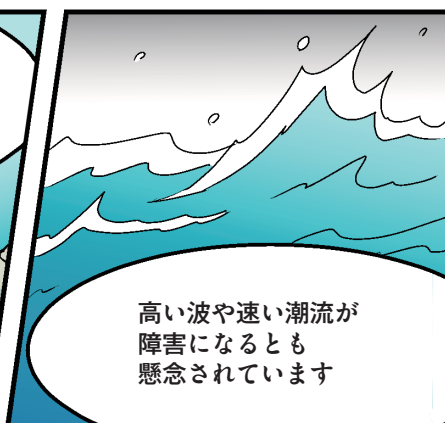
レムチャバン港

チョンブリ県

ラヨン県

外洋に面している
マプタプット港の建設は
政府内部からも懸念されていた

マプタプット港

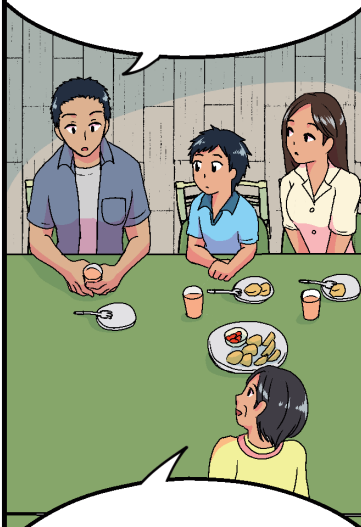


マプタット港建設のいくつかの問題点は
日本の高度な知識や経験によって解決した



このような働きはタイから高く評価され
JICAによる実行計画調査は
順調に進んでいるように見えた

見えたって…
何か問題でもあったの？



タイは日本だけに
頼ることを避けて
世界銀行にも援助を
求めていたんだよ

しかし
1985年末に
事態が急変する

大変です
首相！



何だと!?

世界銀行が東部臨海開発を含む
全ての対外借り入れ対象事業の
見直しを要求してきました！



レムチャバン港の建設を「過大投資」とし
賛成しなかった世界銀行は

世界銀行本部

日本政府の協力で計画が進み出したのを見て
「無謀な行動」と危機感を強めたのだ

われわれが何よりも恐れるのは
この巨大プロジェクトへの
巨額の対外借り入れによって
タイの債務負担*が急増し

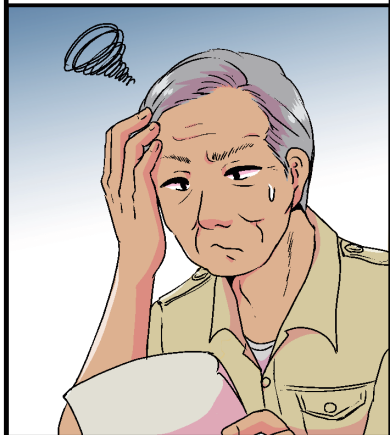
財政赤字*が拡大することで
タイという国自体が
経済破綻してしまうことだ

世界銀行 ハーマンズ所長

※債務負担：元本の返済と利子の支払い

※財政赤字：政府の歳出が歳入を上回る状態

こうして世界銀行は
計画の内容変更を含め
何度も見直しを要求
してくることとなった



タイ政府の内部にも

こんな計画に大きな
成果があるはずがない

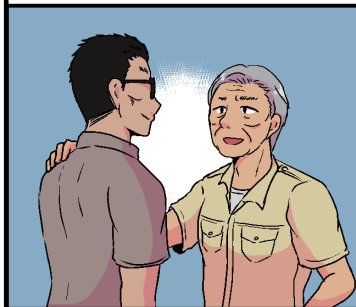


所詮はエンジニアの
発想に過ぎないだろう

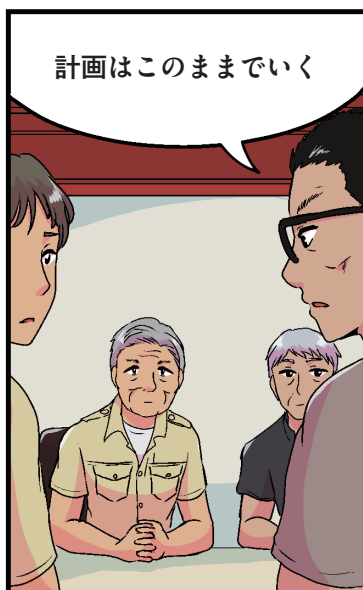
という反対派の声があった

この状況を
「ただごとではない緊急事態」と受け止め
タイ政府は見直し作業委員会を発足

委員会のトップは
プレーム首相の最も信頼する盟友

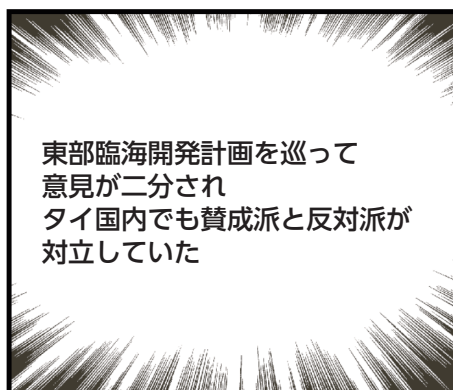
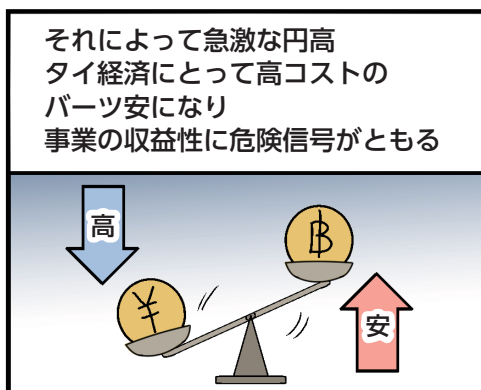


トラブルシューターとして
知られる人物である
スリー首相府大臣だった

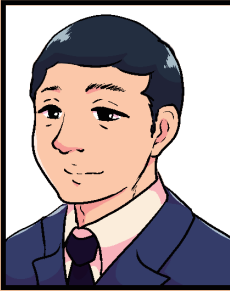


そんな中1985年9月に
米英独仏日5カ国の
財務大臣・中央銀行総裁によって

主に参加各国が外国為替市場に
協調介入してドル高を是正する
「プラザ合意」が発表された



<推進派>



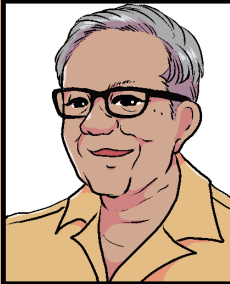
サウイト
東部臨海開発
委員会事務局長

発言がストレート
官僚経験なしの
アウトサイダー
ハーバード大学で
博士号を取得



ビシット
NESDB (国家経済
社会開発庁) 副長官

小柄で痩身
切れ味鋭い発言が
持ち味



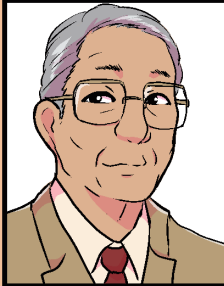
ソンマイ蔵相

長年、中央銀行に勤務
経験豊富 ごうほうらいらく
大柄で色黒の豪放磊落なボス
日本留学経験があり、慶應義塾大学で修士号を取得
ただし日本寄りに見られ過ぎないようにしていた



マナット
財政政策局長

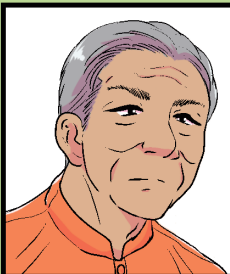
ソンマイの腹心
細身、色白、
冷静、柔和



カセム
NFC (石油化学
会社) 会長

敏腕経営者
スーパー K
初老だが
エネルギーに
あふれる人物

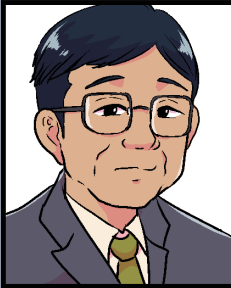
<中立>



プREAM首相

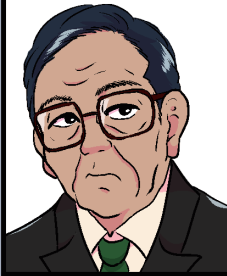
貧しい家庭の出身で、苦学して陸軍士官学校に入った
国王の治世を安定、繁栄させることを望む
首相を辞めた後も、強い影響力を持つ
生涯独身だったので政治への
家族・縁戚の影響がなかった

<反対派>



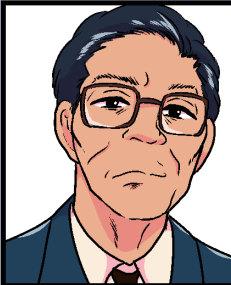
ウィーラボン
首相経済顧問

ペンシルヴェニア
大学で
博士号を取得
マクロ経済学者
親米的エリート



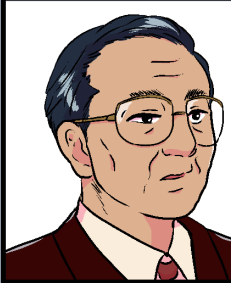
スティー
大蔵副大臣

地味で
重厚な実務家



ニハット財政政策局次長

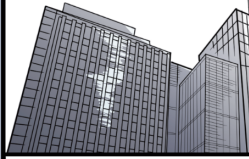
粗野な雰囲気
日本嫌いで有名
マナットとそりが合わず、対立
→ソンマイ人脈では出世は望めないのでスティーに接近していく
最終的に汚職事件で有罪に



コシット
NESDB 副長官

マスメディアへの
露出は少ないが
影響力は大きかった

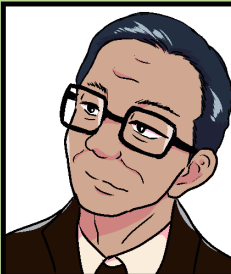
世界銀行



ハーマンズ所長



<中立>



スノー
NESDB長官

ただし隠れ批判派

日本



基本は賛成派であるが
あくまで水面下で
推進に協力
中立で静観している
ように振る舞う

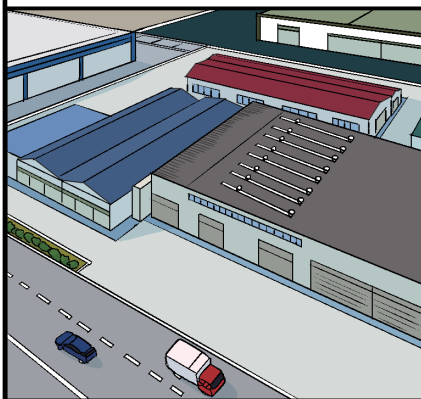


プラザ合意による円高の影響で
日本の製造業は
国際競争力低下に直面し

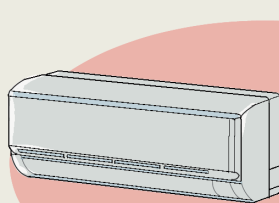


生産拠点を
海外に移さざるを得なくなり
対外直接投資が急増する形となった

タイは日本企業の
海外立地先として人気を集め
工業団地の機運が
一気に高まることになる



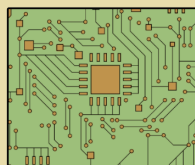
日本から進出した企業の業種はさまざまだったが
高度な技術水準の業種の増加が注目された



電気機器



エレクトロニクス

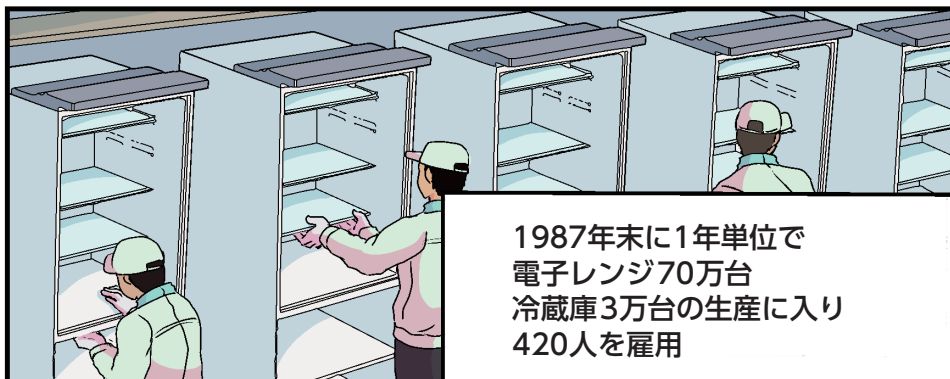
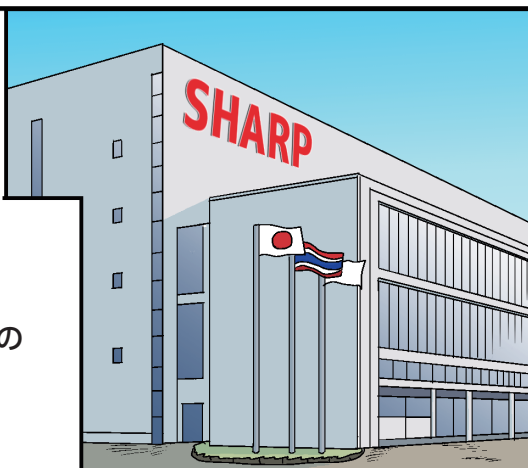


自動車、自動車部品



多数の労働力を雇用する
大規模な製造工場の
進出が開始され

その先駆けとなったのは
シャープの大型新鋭工場の
進出だった

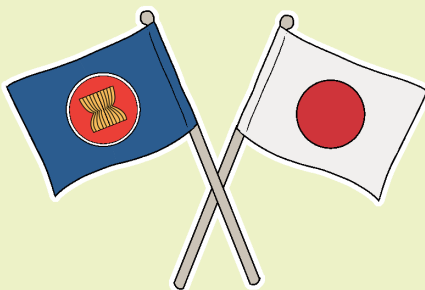
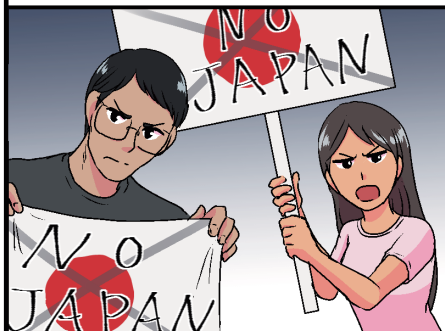


1987年末に1年単位で
電子レンジ70万台
冷蔵庫3万台の生産に入り
420人を雇用



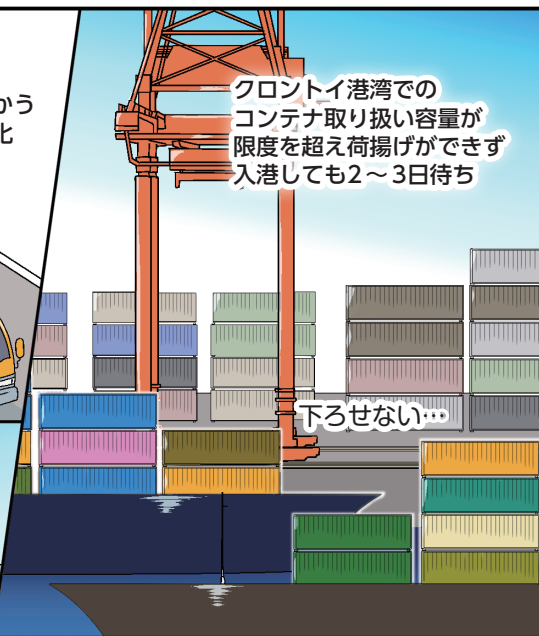
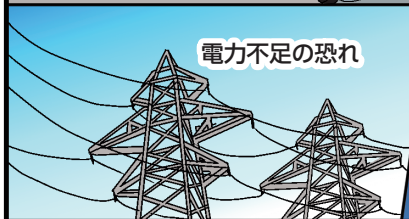
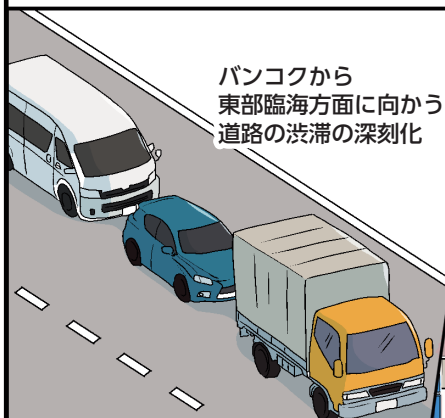
この出来事はタイの人々にとって朗報であり
タイ経済に明るい展望を与えた

また、タイおよびASEAN諸国の
反日感情の高まりで
関係が悪化しかけたことを
日本側も深刻に受け止め



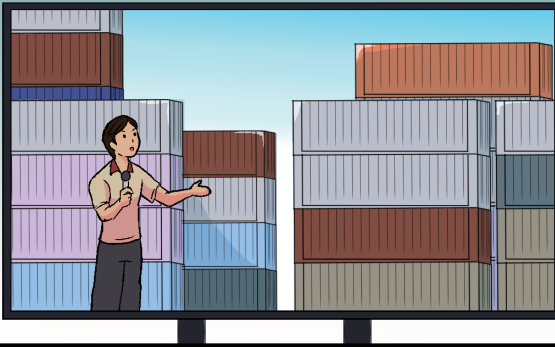
「日・ASEAN投資・
技術移転総合促進プログラム」が
発表された

一方、海外からの投資が増えるにつれオフィスの開設や工場建設が急増し
インフラ不足が目立つようになった

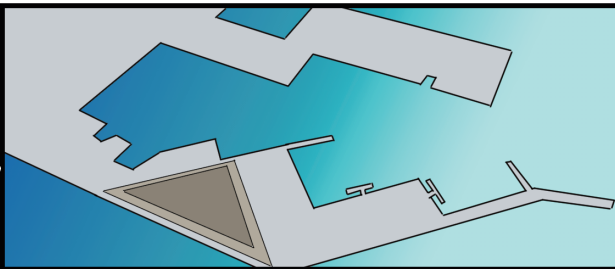
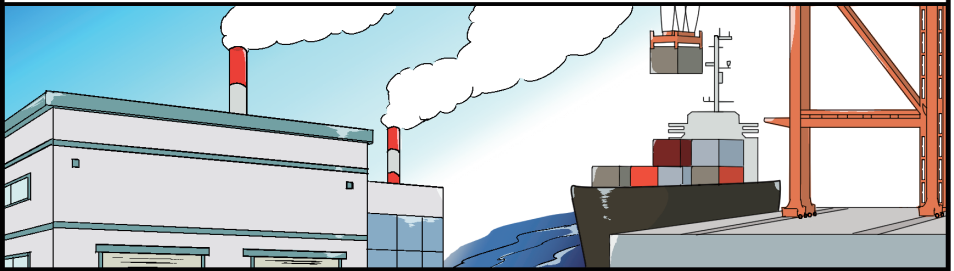


こうした混乱の報道が続き
自然と東部臨海開発計画の凍結を
見直すべきという追い風が吹く

News



1986年10月にはプレーム首相が
レムチャバン地区の事業再開にゴーサインを出し



その後
マプタプット地区の
建設が再開

周辺の地域にも工業団地の建設が始まり2年後――

計画への強いニーズにより
「これ以上の凍結は無理」と判断し政府は凍結を全面解除

残りの開発も進むことになる

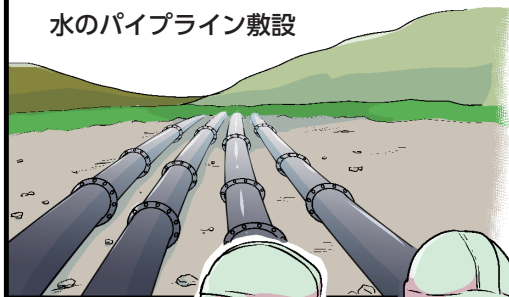
マプタプットから
サタヒップまでの鉄道建設



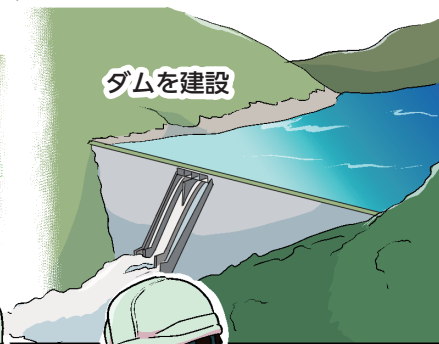
マプタプット

サタヒップ

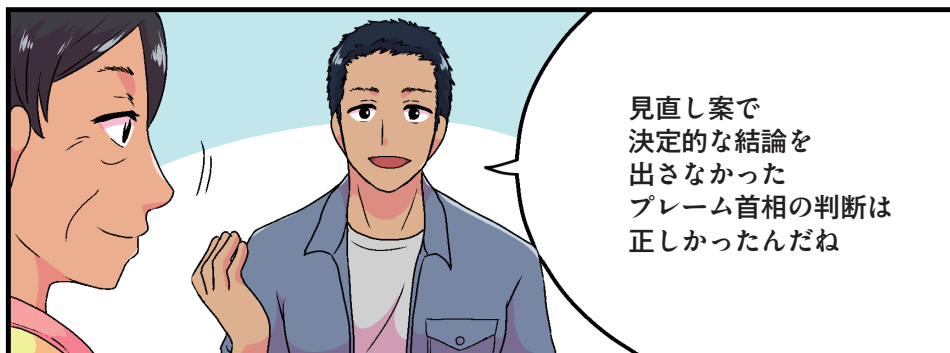
水のパイプライン敷設



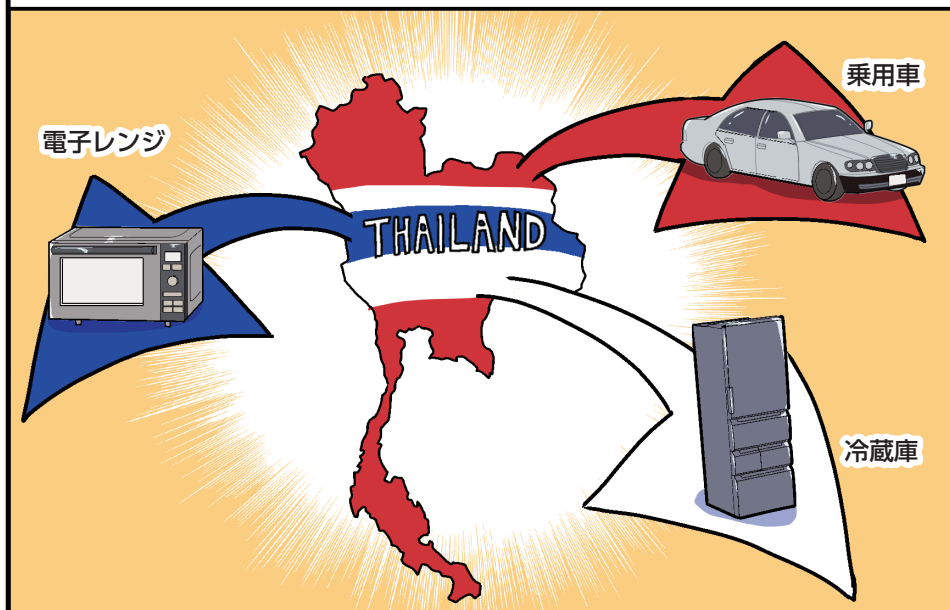
ダムを建設



こうした動きから反対派の声は次第に小さくなり、やがて自然消滅した



日本からの直接投資がさらに増加し
以前には想像もされなかったような製品が
タイから世界へと輸出されるようになる



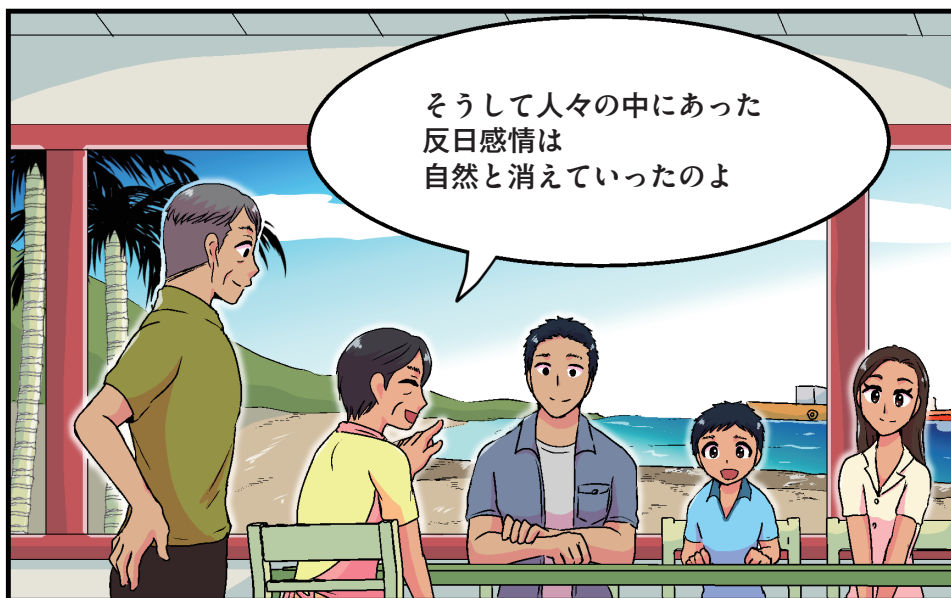
こうしてタイはかつての「日本企業にとっての市場」から
「日本企業の輸出基地」へと見事に転換したのであった

それはタイが最も重視し
日本に強く求めていたことだった

短期間での達成と
その過程での日本側の協力を
高く評価した



反日運動の中核であった学生たちに関しても
海外企業の進出により技術系の学生の初任給が1987年度中に
25%上昇するなど就職状況も改善された

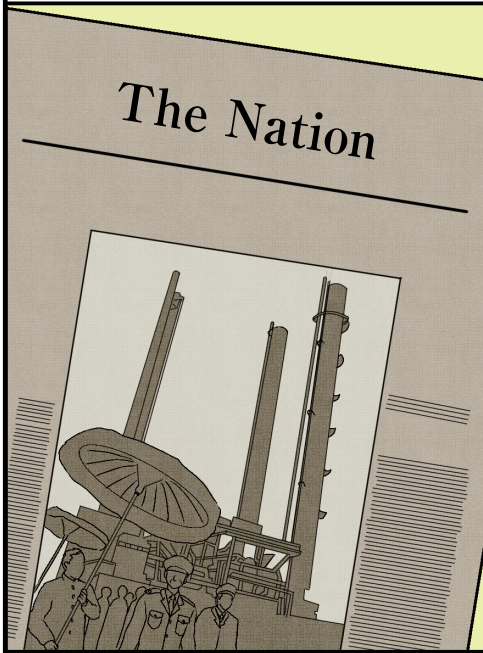


2007年3月

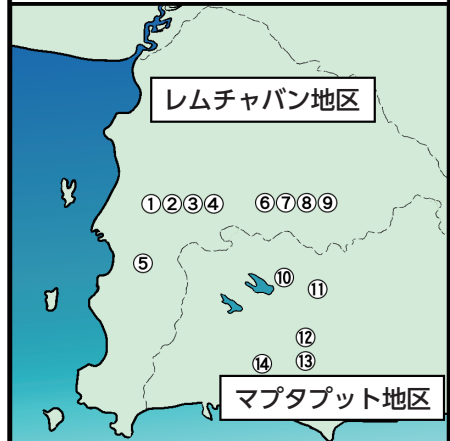
これまで東部臨海開発に好意的ではなかった
タイの英字紙「ネーション」が特集号を出した

「新たな時代への跳躍
30年近く前に東部臨海が
タイの経済的地平を変えた」

高揚したタイトルが
タイの人々の達成感を物語っている



2007年時点で14の工業団地に
1300以上の工場が立地し
36万人が働いていることを紹介



自動車関連の工場だけで
516に達することを強調した上で
東部臨海開発は大成功だと宣言し

タイ人が達成した輝かしい
功績であることを伝えた

だがそこには「日本の援助」が
あったことは全く触れられていない

しかしこれこそが
本当に成功していた証しだった



「本当に成功した」と誇りに思うからこそ
タイの人々は「外部からの援助なしに
自分たちの力で達成した」と主張したのである

あくまで日本は陰ながら協力した存在であり
これはタイの人々の知恵と努力の結果なのだ



この「陰ながらの協力」は
とても日本らしいやり方だ

とタイのジャーナリストは語った

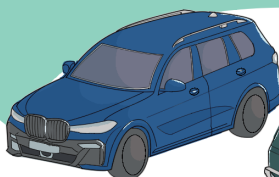
日本の自動車メーカーにとって
タイの中でも東部臨海地域は最大の拠点であった

TOYOTA

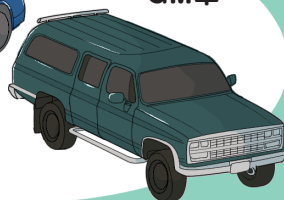
NISSAN

HONDA

アメリカからもGMやフォードが進出し
「東洋のデトロイト」と呼ばれるようになる



フォード車



GM車

当初の案では二つだけだった工業団地が
2016年には25カ所になり東部臨海地域の内陸にまで広がっていった

このタイの躍進ぶりは国際的にも注目され著名な国際誌も取り上げた

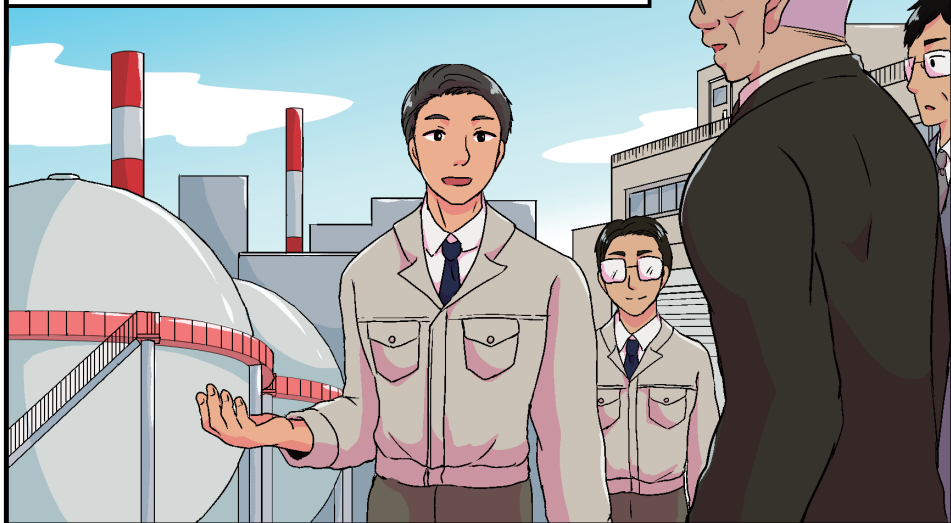
「アジアの新しいスーパースター」

「黄金時代に入ろうとしている」

「急速に着実に繁栄に向かっている」

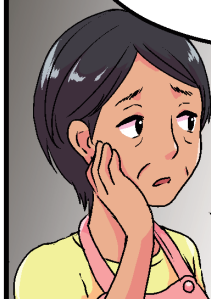
前評判の低さからは考えられないような言葉がつつられていた

さらにこのノウハウを知的資源として
隣国のミャンマーに売り込むまでになった



開発が進んだことで
この国は成長した

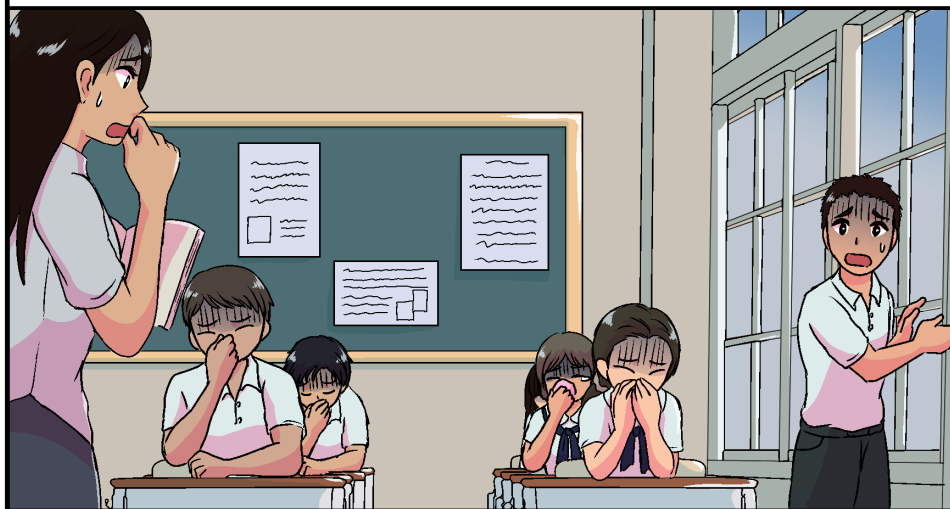
でもね、そのせいで
新しい問題も出てきたの



1996年
マプタプット工業団地に
地域住民から悪臭への
苦情が寄せられた



特にマプタプット工業団地の北東に位置した中学校では
悪臭により授業中止となったという報道は
タイ国内で強い関心を生んだ



マプタプット工業地帯は
タイランド湾の天然ガスを原料とした
石油化学工業が中心ということもあり

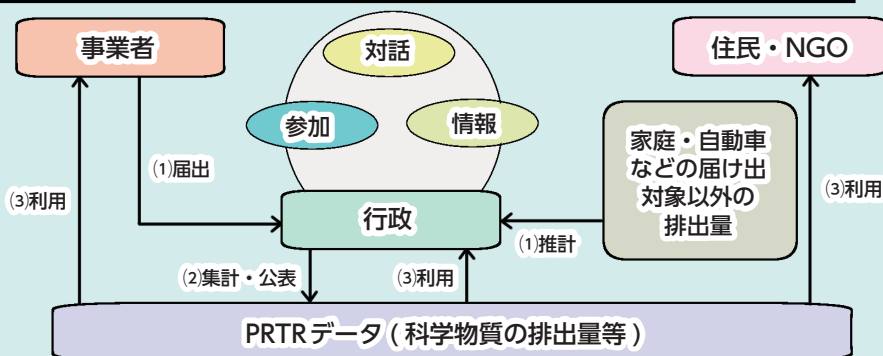


当初から環境問題の影が
つきまっていたのだった

公害問題に対応して関係機関による
対策委員会が設置され対策が講じられた

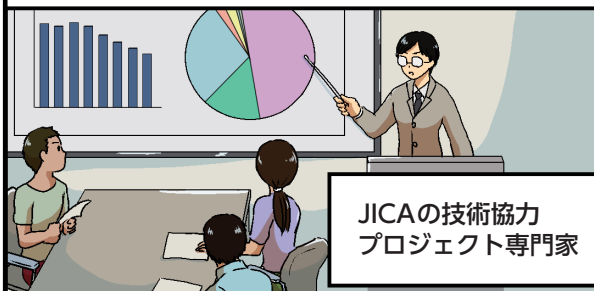
① PRTR 制度（環境汚染物質排出移動登録制度）の試験的導入

PRTRは化学物質を製造、または使用する工場などの事業所が化学物質の排出状況を政府に自主的に報告する制度である



それぞれの事業所が自ら計測し推計したデータを公開するため
自主性や情報公開度が高まるとともに
行政側の人員などの制約を緩和する効果が期待できる

タイ政府はこの制度を
パイロットプロジェクトとして導入し



マプタプットを中心とするラヨン県で
日本の4年間にわたる技術協力の中で
2013年の1年間にわたり実施

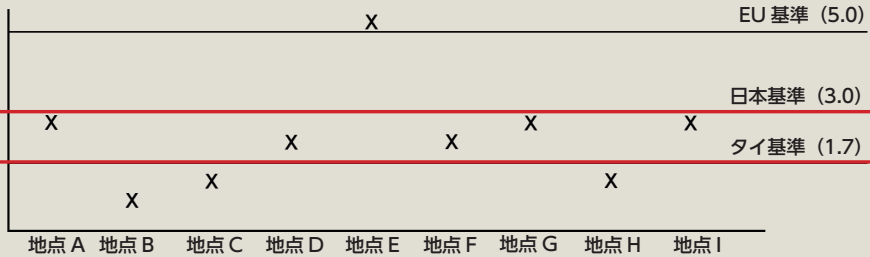
収集し解析した結果は
住民やNGOを
含めた関係者に
フィードバックされ

現在も9カ所で
計測した結果が
公開されている



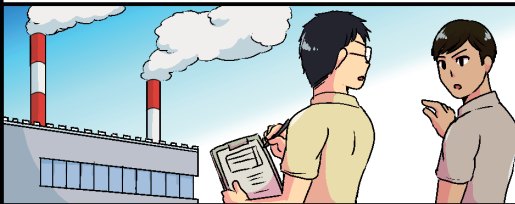
②世界でも最高水準の環境基準値を設定

ベンゼン濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)



厳格な環境基準値の導入を要求する世論に応えるため
タイ政府は世界でも最高水準の環境基準を設定した

マプタプット工業団地での悪臭騒ぎはタイ社会に深刻な衝撃を与え
環境問題に対する意識が急上昇



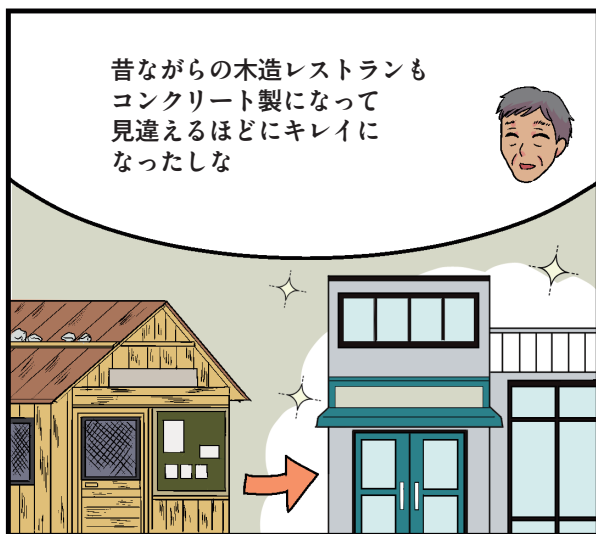
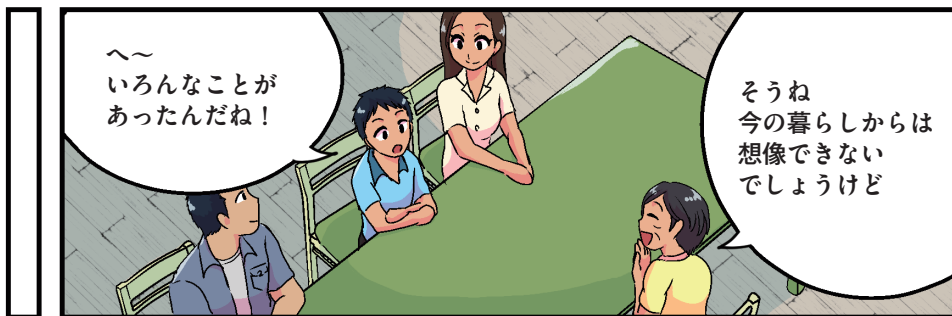
こうした環境問題への
積極的な取り組みは
現在も続いているが

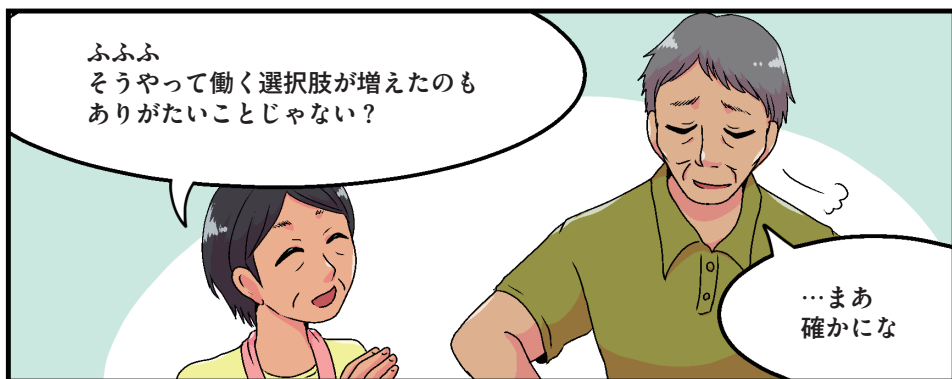
首都圏の人々の間では

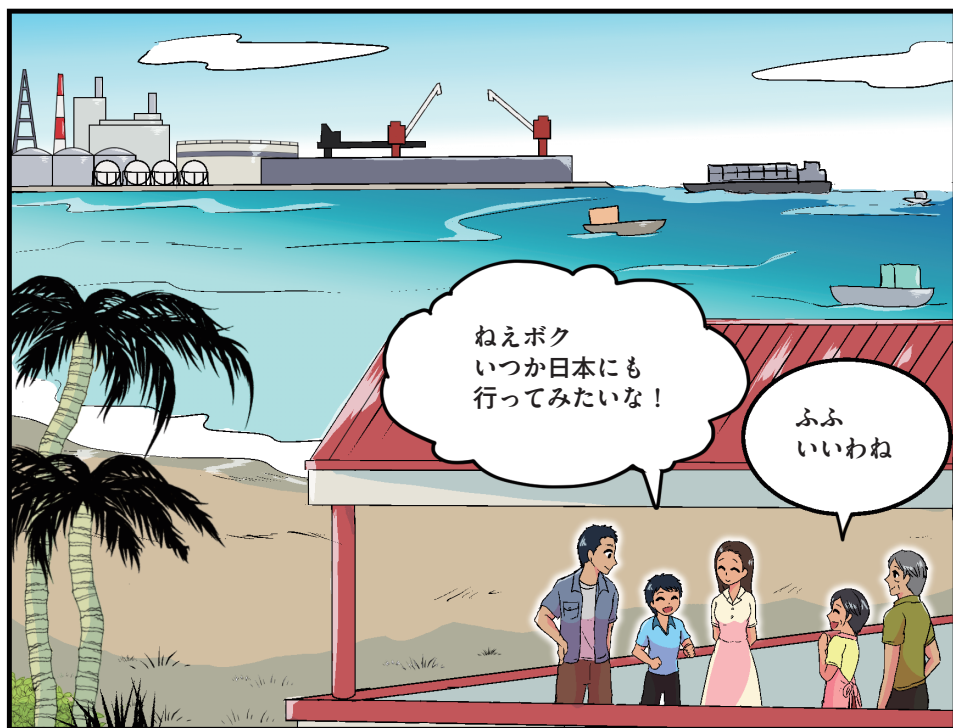
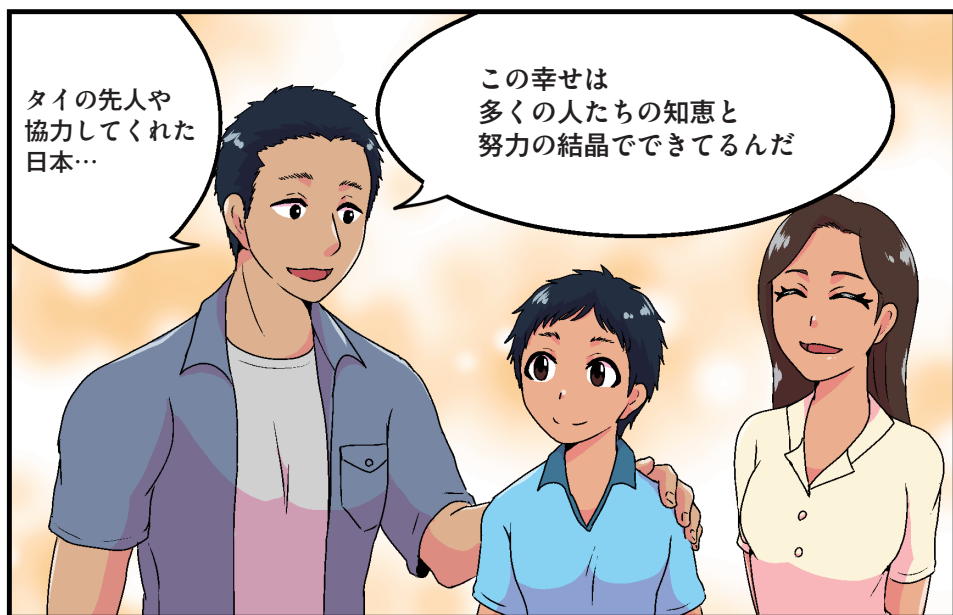
あんな場所に行くな
とんでもない！

東部臨海地域は
汚染されていて
危ないんだから

などと言った噂が根付き、いまだ解消されないイメージがもたれている









独立行政法人国際協力機構（JICA）は
日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として
開発途上国への国際協力を行っています
JICAは、「信頼で世界をつなぐ」をビジョンとして
人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる
自由で平和かつ豊かな世界を希求し
パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぎます

えんしゃっかん 技術協力と円借 款で発展を支援

東部臨海開発計画に対する日本の援助は、技術協力を担当する国際協力事業団（当時）と円借 款を担当する海外経済協力基金（当時）（統合し現在の国際協力機構（JICA））によって、連携しつつ実施されました。当時のタイの経済力では分不相応とも言われた大型開発計画でしたが、日本で臨海工業を発展させた実績と経験を生かして協力することになったのです。

港湾や工業団地、水源開発などにおいて計画の策定から事業の実施に関わり、さまざまな困難を乗り越えながら、タイの発展を縁の下から支えました。そして現在でも JICA はタイの経済発展に協力しています。



詳しくはこちらを
ご覧ください





企画制作・発行：独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

原作・監修：下村恭民

漫画：宮嶋緑子

脚本・デザイン：株式会社角川アスキー総合研究所／
株式会社サイドランチ

発行年月日：2025年3月

プロジェクトストーリー
当冊子はこちら



この作品は事実に基づいて執筆された書籍 下村恭民『タイの新しい地平を拓いた挑戦 東部臨海開発計画とテクノクラート群像』を元に、再編集し制作された漫画です。